

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第2回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	令和7年10月7日（火） （午前） ・午後） 10時 30分 開会 （午前 （午後） 12時 00分 閉会
開催場所	茨木市役所南館3階防災会議室
議 長	野口 義文 氏（立命館大学）
出 席 者	野口 義文 氏（立命館大学）、伊津田 崇 氏（中小企業診断士）、 奥山 結衣 氏（市民委員）、五寶 美奈子 氏（市民委員）、 仙水 裕之 氏（北おおさか信用金庫）、辰巳 雪絵 氏（市内事業者）、 中野 拓二 氏（茨木商工会議所）、 藤井 茂男 氏（市内事業者）（8人）
欠 席 者	辻田 素子 氏（龍谷大学）、大岩 賢悟 氏（市内事業者）、 岡田 賢晃 氏（近畿経済産業局）、大坪 さやか 氏（市内事業者）（4人）
事務局職員	小西産業環境部長、河原産業環境部次長兼商工労政課長、 小倉商工労政課専門監、長野商工労政課長代理兼商工振興係長、 上山商工労政課職員、原田商工労政課職員（6人）
議題(案件)	(1) 趣旨説明 (2) 会議の公開について (3) 令和7年度事業の進捗状況について
配付資料	・議事次第 ・推進委員会名簿 ・第4期プラン基本取組・具体的事業（資料1） ・令和7年度事業について（資料2）

議事の経過

1 開 会

事務局：開会のあいさつ

委員出席状況（12人中8人出席により会議成立）

2 趣旨説明

事務局：（産業振興アクションプラン推進委員会の趣旨・概要を説明）

3 会議の公開について

事務局：市の指針に則り、会議は原則公開とする。

会議録は要約したものを公開する。発言者は個人名を記載する。

なお、今回の傍聴希望者は1名。

4 令和7年度の事業について

事務局：（資料1、2をもとに説明）

＜質疑・意見等＞

委員長：オープンカンパニーの参加企業数が14社まで増えた要因には何が考えられるのでしょうか。

事務局：運用できる企業数としては10～15を見込んでいました。結果的に応募数は14社でした。次回以降まだ増えていく可能性はあると考えています。周知としては、職員だったり、企業同士であったり、茨木商工会議所であったり、色んな繋がりやイベント自体の認知度が企業の中で浸透していった結果、参加企業数が増えていったと考えております。

委員長：前年度参加者の口コミ等もあるのかもしれません。中高生のための職業体験イベントともうまく連動しているよい事業だと思います。

中野委員：特産品の件ですが、11月末に開催される農業祭で茨木のブースを増やしたいというところで農林課さんと相談させていただいて、ふるさと納税の返礼品を出している企業に募集をかけて、10社の企業に出店していただきます。成人式でも同様に地元の方に返礼品の紹介をする機会をと考えております。また、特産品に係る商品開発について、「とりすき」の各種イベントでの販売等進めているところです。

藤井委員：亀岡市との連携について、茨木市の観光事業としては北部地域を活性化させたいという狙いでしょうか。中心部も含めてということでしょうか。

事務局：まずはダムパークいばきたという観光資源からのスタートかなと考えております。亀岡市との連携を考えた場合には、地理的なこともありますので、ダムパークを中核にということになってくるかと思います。観光振興全体としては、北部だけでなくその流れを市内にもというしかけも必要だという認識ではありますが、いきなりすべてのことができるわけではありませんので、今フォーカスしているのがダムパークいばきたというところになります。連携の方策としては、例えばお互いの観光スポットを利用するようなツアーであったりとか、相互に利用できる観光マップを

作成したりだとか、そのようなイメージです。協定締結後の具体的な動きとしては、茨木市の広報誌で湯の花温泉の割引券を、亀岡市の広報誌でグラビテート大阪の吊り橋割引券をつけて、相互に訪れてもらえるような取り組みを進めているところです。

辰巳委員：オープンカンパニーについて、茨木市は地場産業がない中でも、強みをもった企業がたくさんあるなと実感しています。オープンカンパニーの取り組みを通じた企業間の関わりの中で、私たちも色んな強みをもった企業を知ることができましたので、自社のお客様に紹介したりですとか、企業同士の繋がりが広がっていくのではないかという印象を持ちました。

事務局：先日、先進的な取り組みをしている自治体に茨木市から辰巳委員含め5社の方に現地視察に行っていました。オープンカンパニーの取り組みは、7月からスタートして、勉強会やフィールドワークをやったりですとか、12月5・6日の開催当日までの過程を非常に大事にしております。今回初めて参加する企業さんに既に参加いただいている企業さんから寄り添っていただいたり、横の繋がりができているのを感じております。

辰巳委員：現地視察に行った日田市では、それぞれの企業で、参加企業の物を販売しているような取り組みも見ることができました。1社だけで完結するのではなく、企業同士のコラボの可能性も視察を通して感じました。

奥山委員：市場評価ナビ「MieNa」について、せっかくおにクルで誰でも使えるようにしているのであれば、もっとわかりやすく周知をしたら良いのではないかと思います。また、プレミアム付き商品券はデジタルと紙の併用は難しいのでしょうか。

事務局：可能ではありますが、初期費用がかかってきます。一旦システムが出来てしまえばいいのですが、この事業自体、緊急的に国の交付金を活用して実施しているので、いつ実施するかというのが不定期ということもありまして、まず迅速性が求められます。従前の紙のやり方が一番早く実施できます。特に若い世代にとっては、デジタルの方がなじみがあったりもすると思うのですが、迅速性が求められて、高齢者の方を対象としたものもある中で、紙の一本化で実施しております。

藤井委員：事業者側としては、紙の扱いには困りました。切り取りにくい、数えにくい、換金作業も手間でした。事業者としてはデジタルが助かります。

事務局：切り離し無効であるがゆえに、ある程度強度を持たせて、切り離しにくくなっているのはあるかと思います。もし次回あるようでしたら事業者さんの声も吸い上げながら、より良い方法を検討してまいりたいと思います。

委員長：高槻市は、紙とデジタルを併用されています。ぜひ検討をお願いします。

五寶委員：亀岡市との連携について、近いようで、電車を使うと遠回りですが、道はつながっていますので、バイク・自転車に乗る方が楽しめるようなものができたらいいなと思いました。

中高生等のための職業体験イベントで、申込30名ほどとのことですが、中高生を対象としているのはどのようなことからなののでしょうか。

事務局：就職、働くということへの意識醸成を目的にしています。この種のイベントは小学生だと集まりやすく、中高生の方はなかなかハードルが高いですが、この事業の目

的からいくと、中学生・高校生・大学生を対象にしております。大学生のボランティアも6名参加していただく予定です。

委員長：オープンカンパニーの参加者を、この中高生のための職業体験イベントに繋げていくような連携ができればよいのではないかと思います。

仙水委員：中高生のための職業体験イベントは北おおさか信用金庫も参加させていただきます。地元根付いた金融機関ですので、地元のお客様と末永くお付き合いしていくためにも積極的に参加させていただいているところです。

観光資源の件について、私共としてもダムパークいばきたが盛り上がってほしいという思いで、お客様60～70名にバス旅行に行っていました。ダムパークいばきたが関西に留まることなく全国に広がって、どんどん盛り上がっていけばいいなと思います。

委員長：辰巳工業さんが中高生のための職業体験イベントに参加されなかった理由としてはどのようなことがあったのでしょうか。

辰巳委員：弊社は火を扱いますので、体験というのは難しいということがまずあります。また、中高生にどこまで響くのか、響くものを提供できるのかということについても課題に感じまして、今回は参加を見送らせていただきました。

伊津田委員：オープンカンパニーの参加社数がどんどん増えていることは大変喜ばしいことで、茨木の地元愛につながっていく良い事業だと思いますので、今後も進めていただければと思います。また、ふるさと納税についても、魅力的な返礼品を増やして、税収増につなげていくべきだと思います。産学連携スタートアップ支援事業補助金については、申請内容がバイオ系に偏っていますので、さまざまな分野において使っていただけるような工夫が必要でないかと考えます。

委員長：今回の大阪関西万博が不成功した要因はミャクミャクにあると思います。ふるさと納税の返礼品の開発については、いばらき童子を上手く活用するというのもひとつだと思います。また、産学連携スタートアップ支援事業補助金については、大阪大学とバイオ系の会社の連携が多く、そういった採択案件が市のHPにもアップされますので、なかなか敷居が高くなってしまっているところもあるかと思いますので、PR手法の改善が図ればと思います。

事務局：制度自体は広く様々な分野で活用していただける内容になっているのですが、それが伝わっていないので、うまく伝わるような仕掛けが必要だなと考えております。

5 閉会

事務局：次回の委員会は年度末頃を予定しております。

それでは、以上をもちまして委員会を閉会させていただきます。

ありがとうございました。